

Information

就労継続支援B型、就労支援スタッフ募集！

特定非営利活動法人山脈では、下記の事業所のスタッフを募集しています。詳しい業務内容、待遇等については、採用担当までお問合せ下さい。電話0279-54-2947（笹澤まで）

【麦のゆめ（就労継続支援B型）】

募 集	就労支援スタッフ	パート職員
事 業	パンやお菓子の製造と販売、内職作業	
業 務	パンやお菓子の製造、配達、販売、利用者の作業指導及び相談支援、記録等の事務など	
勤 務	6～7時間	
休 日	水曜日、日曜日、祝日	※販売イベント等で休日勤務もあり
資 格	要自動車運転免許	
待 遇	時給 910円～	
その他	昇給 昨年実績 時給30円UP	
	賞与 昨年実績 夏、冬、年度末の計3回	
	各種手当、有給休暇、退職金共済加入、社会保険及び労働保険加入	

新年度(令和5年)度賛助会員募集中！

「山脈」の設立趣旨に賛同し、私達の活動を応援してくれる方を募集します。一口2,000円で何口でもかまいません。昨年に引き続き、皆様の温かいご理解とご支援を宜しくお願い致します。

賛助会員 年会費 2,000円(一口)

山脈ニュースをお届けします

賛助会員になられた方には、毎月、当法人の活動の内容をお伝えする「山脈ニュース」をお届けします。

発 行 特定非営利活動法人 山 脈 理事長 笹澤 繁男

住 所 〒370-3604 群馬県北群馬郡吉岡町大字南下983-2(みやま工房内)

電 話 0279-54-2947 FAX: 0279-54-9171

E-mail: rep@npo-yamanami.jp

URL: <http://www.npo-yamanami.jp/>

運 営 就労継続支援B型事業所「みやま工房」
就労継続支援B型事業所「麦のゆめ」
就労継続支援B型事業所「キッチンハウスみやま」
グループホーム「ハーモニーやまなみ」1号・2号・3号・5号・6号

(文責：笹澤賢一)

NPO

法人

山脈ニュース

2023.2

No.235

グループホーム「新ハーモニーやまなみ3号」の建設が始まりました！

昨年末よりグループホーム「新ハーモニーやまなみ3号」の建設がはじまりました。完成は5月中旬を予定しています。「新ハーモニーやまなみ3号」は、共同生活タイプの女性専用グループホームで定員は7名です。

完成後、吉岡町陣場にある「現ハーモニーやまなみ3号」に住んでいる方が引っ越しをします。また、引っ越し後もまだ定員に余裕がありますので新たな入居者の募集を予定しています



みやま工房の手作り乾燥芋、好評販売中！

昨年末から「みやま工房」が新たな事業として開始した手作りの乾燥芋が大変に好評です。みやま工房のある吉岡町は以前から冬の空っ風を生かした乾燥芋作りが盛んで吉岡町を代表する特産品のひとつです。今後、この乾燥芋作りが「みやま工房」の利用者さん達の工資向上に繋がるようになればと大いに期待しています。

乾燥芋作りは冬の間の仕事で販売期間が限定されますので、お買い求めはお早めをお願いいたします。



ハーモニーやまなみのみんなでみかん狩りと冬桜散策をしてきました！

昨年の11月19日(土)、グループホーム「ハーモニーやまなみ」のレクリエーションで鬼石町へみかん狩りと冬桜散策に出かけました。入居者の方々からレクリエーションに行きたいという要望が出ていましたが、コロナ禍でなかなか計画が出来ませんでした。久しぶりのレクリエーションでみんなの楽しそうな笑顔が見られました。



きょうされんの「がんばるデイ 2022 中央企画」に参加しました！

昨年の12月9日（金）、「がんばるデイ 2022 中央企画」にきょうされん群馬支部を代表し、澁澤支部長と事務局を務めます私が参加してきました。がんばるデイとは、毎年12月からスタートするきょうされんの国会請願署名・募金運動全国キャンペーンの先陣の口火を切るイベントとして行われる街頭署名活動のことです。

この「がんばるデイ」は、例年、「きょうされん」の関東甲信越ブロックの支部が中心となり新宿西口で開催されていましたが、今年は新宿西口が工事のため使えないため、初めての試みとして霞が関の厚生労働省前の路上で実施されました。各支部から職員や利用者さん、事務局の方々、そして、藤井専務理事、赤松常務理事、斎藤理事長も応援に駆け付け、総勢100名あまりが厚生労働省前に集まりました。

街頭署名のスローガンは「外へ出よう」です。その醍醐味は利用者さんや福祉現場の職員の方々が街頭に立ちマイクを持ち、国会請願に掛ける想いや現場の生の声を社会に向けて直に呼びかけることにあると思います。ちなみに街頭でマイクを持ち、発言する人をスピーカーと呼びます。スピーカーになる人は、事前に募り、ひとりひとりの発言時間が割り振られています。今回も藤井専務理事、赤松常務理事、斎藤理事長、そして、多くのスピーカーの利用者、職員が発言をしました。

今回、群馬支部は初参加でしたので、新宿西口の「がんばるデイ」がどんな様子だったかはわからないのですが、障害者福祉の制度を作る厚生労働省の前ということで、きっとこれまで以上に発言に熱が入っていたのではないかと感じました。スピーカーになった利用者さん、職員の方々が次々にマイクを使って、厚生労働省のそびえ立つビルに向かって、「厚生労働省の皆さん！」と呼びかけ、困っていること、要望などを訴えかけました。その迫力にただただ圧倒されるとともに感動しました。

しかし、現実的には厚生労働省の人が窓から顔を出してくれることもなく、厚生労働省のビルに出入りする職員の方も話に耳を傾けることもなく通り過ぎて行くだけでした。ただ、後日、きょうされん全国事務局の方から報告があったのですが、12時30分、全ての発言を終えた後、厚生労働省の課長さんが出てきて、藤井専務理事と赤松常務理事に「全部、聞いていました」と伝えられたそうです。この一言を頂けただけでも厚生労働省前でやった意味はあったと思います。

なお、新宿西口で実施した際にはスピーカー活動と併せて、往来する人に署名を呼びかけその場で署名をもらうのですが、今回、厚生労働省前は人の往来が少なく、歩道が狭いため通行の妨げになるためスピーカー活動を主としました。

「がんばるデイ 2022 中央企画」を皮切りに全国あちこちの支部で街頭署名運動「がんばるデイ」が実施されます。自分達の声を伝え、社会とつながる活動として利用者さんも毎年この活動を楽しみにしているようです。

群馬支部も今年、街頭署名活動「がんばるデイ」を実施したいと会員の皆さんと検討中です。



東京高裁へ65歳問題で闘う天海さんの応援へ

「がんばるデイ 2022 中央企画」に参加した後は、14時30分より65歳問題で千葉県を相手に裁判で闘う天海さんの最終結審が東京高等裁判所で行われるため厚生労働省から徒歩で東京高等裁判所へ移動しました。東京高等裁判所の地下のレストランで食事をし、13時から東京高等裁判所前で行われた天海訴訟集会に参加しました。14時から裁判の傍聴券が配られいよいよ裁判所の傍聴席につきました。80余りある傍聴席は天海さんを応援する人々で埋め尽くされました。

傍聴席を天海さんの支援者で埋め尽くすことでこの裁判に関心があることを示し、不当な判決は認めないという姿勢を見せることが最大の応援になります。

初めての裁判の傍聴をする私はテレビドラマのような検察側と弁護側が互いに異議を申し立てあうような物を想像していたのですが、実際の裁判は淡々としたものであったという間に終わりました。しかし、やはり支援者でこの裁判を見守るということに意味があるのだと思います。

判決は3月24日に出るそうです。「原則介護保険優先」という障害者の方であれば誰もが直面する65歳問題の今後を左右する重要な天海裁判に最後まで目を向け応援したいと思います。

記 笹澤賢一

【当事者投稿コーナー】

昨年、北海道の社会福祉法人「あすなろ福祉会」が運営するグループホームで結婚や同居を希望する知的障害者が不妊手術や処置を受けていた報道がありました。その報道を読んだ利用者さんの投稿です。

マイノリティーに保証を。産み育てる権利

投稿者 トシキ M.R

マイノリティー同士のカップルが急増している。

普通に、恋愛をして、結婚、出産をしている。

現在、それらをマイノリティー自ら決める権利、

リプロダクティブ権利(注)がうたわれている。

それでも、公的な支援が乏しく、支援は想定されていない事実。

そんなことから、不妊施術を提案している施設の存在。

子供たちを十分に育てる社会の仕組みを整える必要がある。

僕自身の育児経験は無いが、このような記事に関心を示す。

マイノリティーの社会向上を考えているからだ。

(注) リプロダクティブ権とは「子供を産み育てるかを自分で決める権利」

(もうひとつの) かわら版 number 5

俺の会は、時代を、考える

自分流を貫く。自分で考える。時代は厳しくなった。グループホームや施設は、例え、どんな者であっても自分が大事。

支援を受けても、自分が主役。もはや、時代は個人化している。

ここで大切なことは。他人との交渉術です。他人とけんかになって気を引くというやり方は昭和のものです。現在は、そんな人間は淘汰される。

僕の弟は幼い頃、泣き虫でした。泣いて気を引いて甘えていました。兄の僕は、よく面倒をみたものです。しかしながら、ある時を境に弟は笑顔になった。いつもニコニコしている弟。兄の僕が怒ってもニコニコしている。弟はどこでそんな処世術を覚えたのでしょうか。次第に僕から離れて友達と遊ぶようになりました。弟は自分が生きることを学んだのです。今では、施設の施設長を務める。兄である僕のような者を支援することを人生の仕事にしています。ここに弟の愛と自己表現があります。俺の会は、自分流を貫くこと、誰でもできることをモットーにしています。

現代社会は、自分が主役のサバイバルです。どんな者でも夢を持って欲しい。諦めて欲しくない。スタッフやワーカーさんや世話人さんに助けて貰いながら立ち上がって欲しい。俺の会はそんなことを思います。

By 俺の会